

ロゴ・マーク制作委員会の活動中間報告(2022年12月～2023年9月)

【活動内容】

1. ロゴ・マークの制作目的

私たちが人間ひとりひとりの顔を認識し親近感を持つように、組織にとってはロゴ・マークが「顔」の役割を果たします。ロゴ・マークは組織の信頼感を得るためには欠かせないものです。ロゴ・マークは、宣伝や広報目的にも使われる他、組織のアイデンティティの一環として、また一般の人にも強く印象付ける有効な手段です。今現在、当会にロゴ・マークはありません。

2. ロゴ・マーク制作委員会の方向性

デザインと法協会のスローガンに基づき、会員一人一人が考え、その思いを可視化し、互いに学びあうことが最大の目的です。デザイン関係者と法関係者が時間をかけて話し合い一つの形に結晶化することです。

3. 委員会スタートにあたって

私たちが初めに考えたことは、本協会のスローガンにもある「両者が集まり、お互いの知見を交換する」このことから、デザイン関係者と法関係者がお互いの知見を交え共に学び合うことから始めたいと思い、委員会のスタートはまずセミナーを開くことだと考えました。

4. ロゴ・マーク制作委員会の活動

第1回ロゴ・マークセミナー 2022年12月8日

- ・会員公開
- ・講演「CI&ブランド戦略とロゴ・マークの価値」中西元男会員
- ・委員会メンバー募集

第2回ロゴ・マークセミナー 2022年12月15日

- ・会員公開
- ・講義「本協会に必要なロゴ・マークとは？」平野吉雄委員長
- ・委員会メンバー募集

委員会メンバー募集 2022年12月15日

- ・制作委員会メンバー参加募集
- ・イメージキーワードの募集

※イメージキーワード=協会の過去、現在、未来のイメージを言語化したもの

委員会メンバー募集締切 2023年1月10日

- ・委員会メンバー12名、イメージキーワード 20 が集まる
- ・14名の委員が決定した
- ・デザイナー5名
- ・企業法務知財 1名
- ・法律研究者教職 1名
- ・法律実務家 7名

第1回委員会 2023年2月15日

- ・会員公開
- ・講義「誰でもわかるロゴ・マーク」井上和世副会長
- ・A グループリーダー：平野湊太郎委員（デザイナー）
- ・B グループリーダー：堀越敏晴委員（デザイナー）
- ・イメージキーワードの検討では委員から活発な発言があった

第2回委員会 2023年3月15日

- ・講義「ロゴ・マークデザイン制作の現場」平野吉雄委員長
- ・各グループでメンバー紹介
- ・本協会への希望や思いなどが議論された

第3回委員会 2023年4月20日

- ・グループでイメージキーワードやコンセプト案を広く検討した

第4回委員会 2023年5月18日

- ・グループでコンセプトの深掘り
- ・イメージキーワードの最終検討

- ・委員によるロゴ・マークのアイデアスケッチの検討

第5回委員会 2023年6月13日

- ・グループでコンセプトの絞り込み
- ・新たなロゴ・マークのアイデアスケッチ検討

第6回委員会 2023年7月18日

- ・ハイブリッド開催（リアル+Zoom）
- ・各グループでコンセプトを決定
- ・決定したコンセプトに基づきロゴ・マークのデザインの検討
- ・コンセプト発表の打ち合わせ

第7回委員会 2023年8月17日

- ・ハイブリッド開催（リアル+Zoom）
- ・Zoomにて会員公開
- ・A、Bグループリーダーによるコンセプトの発表
- ・パネルディスカッション
中西元男会員（デザイナー）、峯唯夫会長（弁理士）、井上和世副会長（デザイナー）、五味飛鳥理事（弁理士）、平野滄太郎委員（デザイナー）、堀越敏晴委員（デザイナー）

第8回委員会 2023年9月19日

- ・ハイブリッド開催（リアル+Zoom）
- ・決定したコンセプトに基づき、各自スケッチからブラッシュアップしたロゴ・マークのデザインの検討
- ・最後に2～3案に絞り込む
- ・今後の商標調査の検討

5. 今後の活動

委員会としては、協会の未来のビジョンを踏まえ、最終的にロゴ・マークデザイン及びその仕様マニュアルまで完成させます。実際にマニュアルを導入するかどうかについては、今後の検討事項になります。委員会の目的は、デザイン関

係者と法関係者がとことん膝を交えて考え、話し合い、作るということに意義を見出して、ロゴ・マークとして最後に結晶化し、これをどう活かして使うかを検討し、学ぶことです。現在は、8月17日に会員公開で行われたコンセプト発表に基づき、ロゴ・マークのブラッシュアップを進めています。今後は、商標調査を行い、その結果も踏まえて最終案を選定していきたいと考えています。

【参加委員の感想】

法律実務家

デザインと法協会の理念とロゴの役割の確認、イメージキーワードの話し合いから始まり、それらをもとにしたコンセプトの検討を通して、必要な言葉がサンプルに研ぎ澄まされていく流れが大変面白かったです。その言葉からイメージされたものが、目に見える形で様々に現れる過程もとても刺激的でした。協会の内外に働きかけるロゴとなるよう、引き続き委員会の活動をしていきたいと思っております。最終的にどのようなロゴとなるのかとても楽しみです。

法律実務家

実際に協会のロゴ制作の作業を実体験したいという思いから、興味本位で気楽な気持ちで参加しました。可愛らしい or 美しいロゴを描くだけだと思っていたら、まずは、協会のコンセプトやどのような協会になっていったらよいと思うかなどの話し合いから始まったのには驚きました。私のつたない理解でいえば、団体（会社も同じ）のロゴというのは、その団体の、存在意義、目的・目標などを象徴するものであるから、まずはその点の認識を深めなければロゴ制作の第1歩も踏み出せない、ということなのだと思えます。そしてそのようなことを考える過程を通じて、自身の団体への思いを再確認していく作業でもありました。

実際に体験してみて、ロゴ制作が、団体の存在意義をどう理解し、それをどう象徴するかという根源と深くかかわるものであることを実感しました。

デザイナー

”商標”という権利、資産から考える立場と、”ブランド”というシンボル、情報価値づくりから考える立場が一緒にワークショップをするのは面白い試みだ

と思いを楽しんでいます。

法律研究者教職

本委員会においては、ロゴ・マークの制作という一つの目標に向けて、デザイナーと法律関係者、企業関係者とが、共同して作業を行っています。一般にバックグラウンドの異なる人々同士の対話は、そもそも視点の違いから噛み合わないこともしばしばあります。しかし、本委員会では、共通の目標に向けて同じ作業を行うことから、それぞれの視点や考え方の違いがより鮮明に現れてきます。本委員会は、ときにぶつかり合いながらも、互いの視点や考え方を理解し、共通の目標に向けて、ともにより良いものを作っていくというプロセスを経験する、格好の機会であると感じています。

法律実務家

ロゴ・マークの制作現場を一から体験させていただくことで、デザインに至るまでの工程や、デザイナーの皆さま各々の考え方に触れることができ、毎回、大変刺激を受けています。今後の展開も楽しみにしています。

デザイナー

「デザイン開発には、慎重であるべき」です。

特に、事業を象徴し、未来の可能性をひらくロゴ・マークのデザイン開発には、形に備わった意味を深く理解する必要があります。

法律実務家

デザイナーと法律関係者の掛け合いによって、ロゴ・マーク制作が進んでいく様は、まさしく「デザインと法」です！

委員会活動はこれから佳境に入りますが、最終的にどのようなロゴ・マーク、マニュアルになるのか、とても楽しみです。

企業法務知財

デザイナー、弁護士、企業の皆さまと共に議論しながら活動するこの委員会に参加したことは、とても刺激的で貴重な経験でした。

単なるロゴ作成という取組ではなく、協会の理念や将来的な活動の方向性を確

認したり、想像しながら、それをデザイン案に投影する作業に真剣に取り組むことで、この協会が素晴らしい団体になってほしいという思いを持つようになったと思います。

法律実務家

実力派のデザイナーの皆様とご一緒して、毎回の会合が新鮮な驚きの連続です。色と形以外の検討に、これほど知力と労力と時間をかけるとは知りませんでした。終盤に向けての活動がますます楽しみです。

デザイナー

後半はできるだけリアルで参加するようにしていましたが、参加人数が程よく、様々な方と交流できる良い機会となっています。制作を通じて、多様な方の意見が聞けるのが魅力です。

法律実務家

デザイナー、法律家、企業人、学者等が垣根を超えて協力し、協会のロゴ・マークを制作しようという今回の試みは決して簡単なものではありません。しかしながら、議論しながら、作業しながら、この難しいプロジェクトを進めて行く過程で、相互の理解が進んだように感じます。そういう意味では既に大きな成果が上がっているこのプロジェクトですが、最終的には協会の「顔」となる素敵なロゴ・マークが完成するよう、引き続き、力を合わせて知恵を絞っていきたいと思います。